

4年ぶりの通常開催 仙台七夕祭り

東北の三大祭りといわれる、ねぶた、竿灯、七夕。その伝統の仙台七夕祭りが8月6日～8日三日間4年ぶりに通常規模で開催されました。



三年前は休止、昨年、一昨年は中心商店街の七夕飾りの高さを地上から2メートル以上とする高さ制限を設けて規模を縮小しての開催でしたが、今年は制限を撤廃したことでの通常開催です。マスク無しで手が届く吹き流しをかき分けて歩きながら多くの観光客や家族づれが、風に揺れる七夕飾りの豪華絢爛な様子を楽しんでいました。今年は期間中155万7千人の集客があったそうです。





東日本大震災からの毎年復興を願い作成され続けている大型の復興七夕飾り。ことしも、市内の小中学生が折った折り鶴7万8千羽で作成され、ピンクと白の二色で「思いを未来へ」のテーマを表現して観光客の目を引いていました。あまりの壮大さにわが子の作品を探す人や中の飾りを探すなど、思い思いに写真を撮影する人ばかりが目立ちました。



小中学生の復興七夕



復興七夕の内側

例年、商店街毎に金・銀・銅賞の優秀作品が選ばれていますが、今年は初めての試みで、その36本の中からさらに一般のウェブ投票によりグランプリと準グランプリを決める取り組みが行われました。



グランプリ作品

初めてのグランプリを受賞した作品は、自然豊かな杜の都が未来に続くようにという願いを込めて制作され、再生紙を使ったおよそ7000個のピンク色の花飾りで、さらにジャスミンの香りづけされた華やかに彩られた作品でした。



準グランプリ作品

準グランプリは、吹き流しの一枚一枚に折り紙で作られたバラやカーネーション、アジサイ等を切り合わせて100輪以上を貼り合わせて作られた色鮮やかな、手の込んだ作品が選ばれました。

報告:喜多見
(2023年8月)